

衣生活関連用具に対する意識の変化

—中学生を対象にした2002年度と2012年度の調査結果から—

服部 由美子^{*1} 佐藤 恵美^{*2} 山本 紀久子^{*3}

(2013年9月30日 受付)

緒 言

生活様式の変化とともに、使われなくなる道具と新しく取り入れられる道具が存在する。第二次世界大戦後、衣生活の変化の一つとしてJISによるサイズの整備、有名デザイナーによる洗練されたデザインの導入、新素材や加工技術の開発などにより、既製服が私たちの生活に浸透し、現在では家庭で衣服を手作りする人は少なくなっている。また、技術の進歩に伴い、新しい機器や高機能高性能を備えた家電製品が開発・市販されている。これらのことは、私たちの家庭生活のあり方にさまざまな影響を及ぼしている。

学校教育において、家庭科では実践的・体験的な活動、問題解決的な活動を通して学習する機会が多く、教材として実験・実習などに使用する道具類は学習効果を左右する。小学校学習指導要領¹⁾ および中学校学習指導要領²⁾ では、実習の指導にあたり用具の手入れや保管、事故の防止に配慮することが明記されているが、学習者が使用する道具類についてどの程度理解しているのか、名称や使い方を正しく確実に定着させるためには、指導者は生活の中で用いられる道具類の実態をある程度把握したうえで、快適で豊かな生活のあり方について学習指導を行うことが望まれる。

これまで、被服製作における用語や知識の実態に関する研究^{3~5)} は行われているが、衣生活に関連する用具は多岐にわたることから、その動向に関する報告は少ない。筆者らは、1990年代後半から衣生活に関連する用具に着目して、教員養成の立場から大学生および中学生を対象に、その保有・使用状況^{6~9)} について調査を行ない、家族形態および品目により異なることを明らかにしている。しかし、ここ10数年の間にパソコンや携帯電話・スマートフォンの普及をはじめとして、私たちの生活には変化が生じていると考えられる。

本研究では、被服製作および衣服の手入れに関する用具に焦点を絞って、中学生を対象に2002

^{*1}福井大学教育地域科学部生活科学教育講座

^{*2}福井大学教育地域科学部附属中学校

^{*3}帝京短期大学こども教育学科

年度の調査から10年経過した節目の年に同様な調査を行なうことにより、家庭における衣生活に関連する用具の変化について検討した。

研 究 方 法

1. 調査対象者と時期

調査対象者は、福井市およびその近郊に在住する中学校の1年生と2年生で、その内訳を表1に示す。2002年度は228名（男子112名、女子116名）、2012年度は219名（男子108名、女子111名）である。調査は、2002年4月および2012年4月から5月に実施した。そのため、1年生の回答は小学生の時の経験によるものである。

表1 調査対象者

（単位：名）

性別	2002年度			2012年度		
	1年生	2年生	合計	1年生	2年生	合計
男子	56	56	112	54	54	108
女子	61	55	116	57	54	111
合計	117	111	228	111	108	219

2. 調査方法

（1）調査品目

調査品目を表2に示す。今回の調査品目は、平成12年度使用小学校用「家庭」教科書2社4冊^{10～13)} および中学校用「技術・家庭」教科書2社4冊^{14～17)} の計8冊に掲載されている衣生活に

表2 調査品目

分 類	品 目
糸	手縫い糸 ミシン糸（カタン糸、ポリエステル糸を含む） 毛糸 しつけ糸 ししゅう糸（5品目）
針	手縫い針（とじ針、ししゅう針を含む） ミシン針 まち針 かぎ針 棒針（5品目）
ミシン	足踏みミシン テーブル型電動ミシン ポータブル型電動ミシン コンピュータミシン ロックミシン ボビン ボビンケース（7品目）
裁縫・手芸	巻尺 ものさし（定規） 方眼定規 糸切りばさみ ピンキングばさみ 裁ちばさみ へら チャコペン 布用複写紙 ルレット 指ぬき 針さし 折れ針入れ ひも通し リッパー 仕上げうま 人台 裁縫箱 ししゅう枠（19品目）
アイロンかけ	電気アイロン（スチームアイロン、コードレスアイロンを含む） きりふき アイロン台（3品目）
洗濯機・衣類乾燥機	二槽式洗濯機（脱水機付） 全自動洗濯機 衣類乾燥機 ドラム式洗濯乾燥機 タテ型洗濯乾燥機（5品目）
洗濯・収納	バケツ 洗いおけ（たらい） ゴム手袋 はかり 計量スプーン リットルます ハンガー 洗濯ご 洗濯ばさみ 物ほしロープ 小物ほし器 室内用物ほし パイプハンガー 物ほしざお 物ほし台 洋服ブラシ 衣装ケース タンス（18品目）

網掛けは、2012年度に追加した品目。

関連する用具（以後、「衣生活関連用具」と記す。）をもとに、被服製作および衣服の手入れに関する用具に限定して、62品目に整理集約した。これらの品目の用途・種類をもとに「糸」（5品目）、「針」（5品目）、「ミシン」（7品目）、「裁縫・手芸」（19品目）、「アイロンかけ」（3品目）、「洗濯機・衣類乾燥機」（5品目）、「洗濯・収納」（18品目）に7分類し、保有・使用に対する意識の変化を分析した。

なお、「洗濯乾燥機」は2000年頃から急速に需要を伸ばしているため、今回「ドラム式」と「タテ型」の2品目を追加した。また、「ミシン糸（素材は不明）」の他に「カタン糸」「ポリエステルミシン糸」を個別に調査を行っているが、正しく区別されているかどうか曖昧なことも考えられるため「ミシン糸」に統一することにした。同様な理由から、「とじ針」「ししゅう針」は「手縫い針」に、「チャコ鉛筆」は「チャコペン」に、「スチームアイロン」「コードレスアイロン」は「電気アイロン」に統一している。

（2）調査内容および方法

調査内容は、それぞれの用具について「家庭（自宅）にあるもの」と「授業以外で最近1年間に使用したもの」を尋ねた。

調査方法は、教員が授業に支障のない時間帯に対象品目のイラストまたは写真を例示した資料とともにアンケート用紙を生徒に配布し、その場で記入・回収した。回答は、子どもたちの記憶をもとに評価したものであり、家庭に持ち帰って調査したものではない。日常生活の中で意識されている用具を対象にしている。そのため、家庭において死蔵されている場合など実際には保有されているかもしれないが、日常生活の中で意識されていない場合には本研究では保有されていないものとして扱っている。

データ分析には、統計解析ソフトウェアSPSS 16.0J for Windowsを用いた。

結果および考察

1. 保有・使用品目数の変化

衣生活関連用具について、家庭における保有品目数と授業以外における最近1年間の使用品目数の平均値を、図1に示す。学年別・男女別に比較している。10年前と比較して、保有品目数と使用品目数ともに減少傾向にある。

2002年度の家庭における保有品目数の平均値と標準偏差は、1年生男子 40.4 ± 6.52 、2年生男子 40.8 ± 7.88 、1年生女子 43.0 ± 5.60 、2年生女子 43.3 ± 5.49 に対して、2012年度は1年生男子 35.6 ± 8.42 、2年生男子 36.6 ± 10.02 、1年生女子 38.1 ± 6.27 、2年生女子 38.6 ± 6.84 である。この10年間に保有品目数は男女ともに減少傾向を示し、今回の範囲では4～5品目減少している。

2002年度の使用品目数の平均値と標準偏差は、1年生男子 22.5 ± 11.21 、2年生男子 14.9 ± 12.36 、1年生女子 31.4 ± 8.74 、2年生女子 24.6 ± 12.35 に対して、2012年度は1年生男子 19.1 ± 13.02 、2年生男子 14.3 ± 12.75 、1年生女子 25.3 ± 12.30 、2年生女子 24.2 ± 12.35 である。保有さ

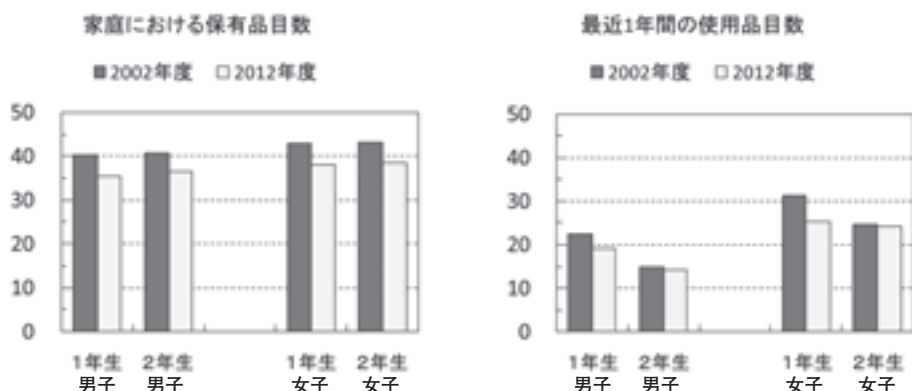


図1 2002年度と2012年度における保有・使用品目数

れているにもかかわらず使用されない用具が多い。授業以外における使用品目数は、男子よりも女子の方が多く、2年生よりも1年生の方が多い傾向を示しているが、10年間の変化として特に1年生において減少傾向が著しく、男子では3.4品目、女子では6.1品目減少している。しかし、2年生における変化は僅かで男女ともに1品目以内であることから、学年による差は縮小傾向にある。今回の対象品目の範囲では男子では15品目、女子では25品目程度に落ち着くのではないかと推察される。

2. 衣生活関連用具に対する保有率の変化

2002年度と2012年度の保有率として、調査品目ごとに「家庭にある」と回答した生徒の割合を図2に示す。図1に示すように、調査品目の保有数では学年および男女による差は少ないことから、これらをまとめて10年前と比較している。

衣生活関連用具の保有率は、品目により変化の様相が異なる。被服製作では、特にミシン縫いに関連した用具は保有されない傾向にある。また、衣服の手入れに関する用具として「電気洗濯機」は、新しい機種に移行されていることがうかがえる。

保有率50%以上の品目は2002年度には49品目あり、「洗濯乾燥機」（2品目）を除くと調査品目に対して80%に相当する。しかし、2012年度は40品目（63.5%）まで減少している。そのうち、保有率90%以上の品目は、2012年度には14品目あり、被服製作に関する用具として「手縫い糸」「手縫い針」「まち針」「糸切りばさみ」「ものさし（定規）」「チャコペン」の6品目、衣服の手入れに関する用具として「アイロン」「アイロン台」「ゴム手袋」「ハンガー」「計量スプーン」「洗濯かご」「洗濯ばさみ」「タンス」の8品目である。10年前にはこれらに「ミシン糸」「ミシン針」「巻尺」「針さし」「バケツ」の5品目が加わる。これに対して、保有率10%以下であった品目は、2002年度には「テーブル型電動ミシン」「ロックミシン」「仕上げうま」「人台」の4品目であるが、2012年度にはこれらに「布用複写紙」「足踏みミシン」「二槽式洗濯機」の3品目が加わる。

保有率の変化を分類別に10年前と比較すると、「糸」と「針」では手縫いに必要な「手縫い糸」

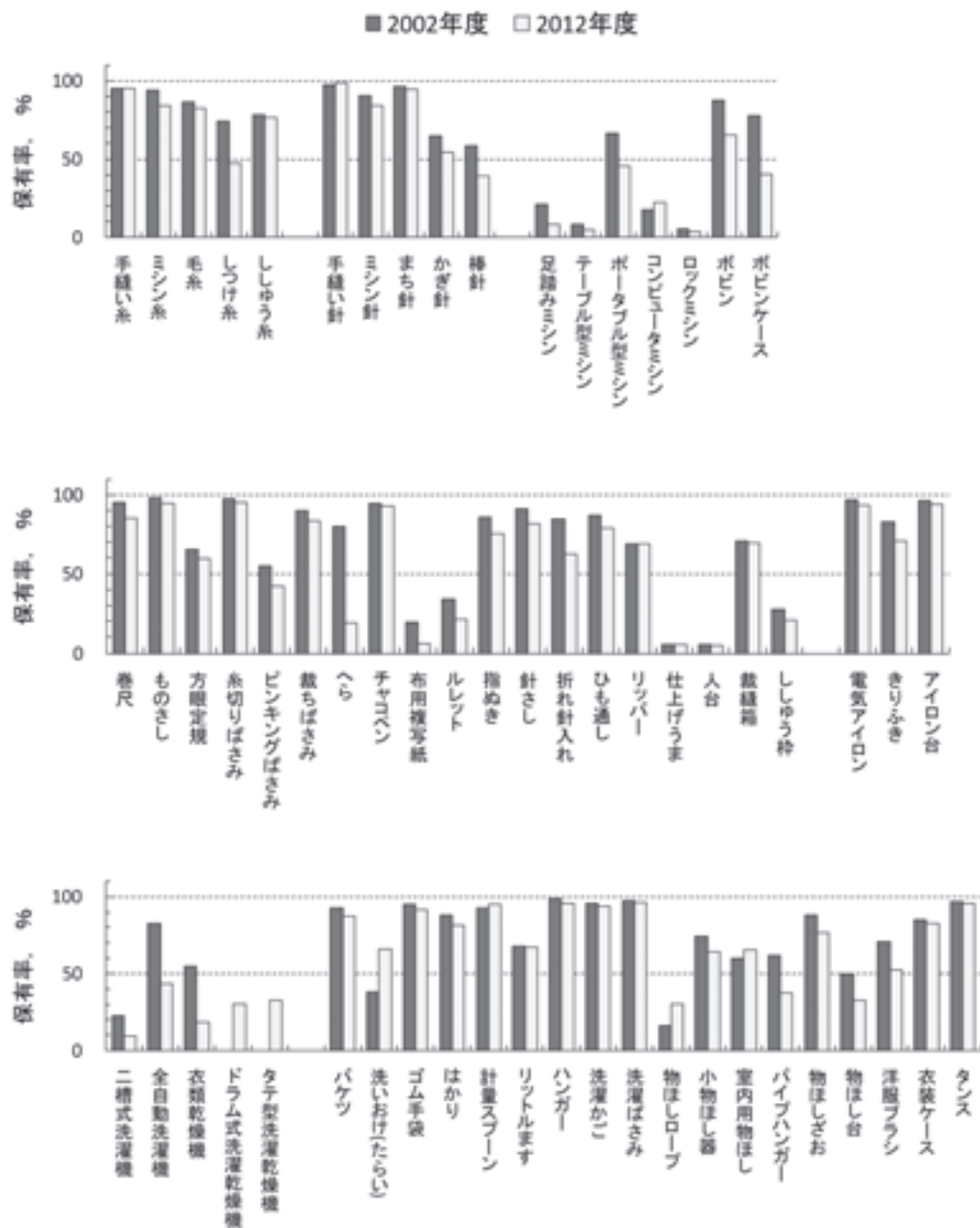


図2 2002年度と2012年度における衣生活関連用具の保有率

「手縫い針」「まち針」の3品目は、依然90%以上の高い保有率を示しているが、その他の「糸」の保有率は減少傾向を示し、特に「しつけ糸」は著しい。「針」では「ミシン針」「かぎ針」「棒針」の減少傾向から、家庭でミシン縫いや編み物をする機会が少なくなっていると推察される。

「ミシン」に関する用具では、「コンピュータミシン」を除いて減少傾向にある。家庭におけるミシンの保有状況を、機種に関係なく比較したものが図3である。10年前と比較すると、ミシンを保有していない家庭が14.0%から28.8%まで倍増していることから、近い将来「ミシン」のない家庭が半数以上になることが予想される。機種では「ポータブル型」が主流を占めているが、下糸を巻

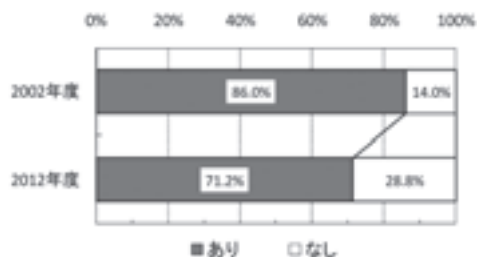


図3 家庭におけるミシンの保有状況

くための「ボビン」を入れる「ボビンケース」の保有率が77.6%から40.6%にほぼ半減していることから、小さな用具のため気づかないことや「ボビンケース」を内蔵したミシンが多く市販されていることも影響しているのではないかと考えられる。ミシンの扱い方を指導するうえで、家庭におけるミシンの有無と新機種への対応が今後の課題となる。

その他の「裁縫・手芸」に関する用具は、「糸切りばさみ」「チャコペン」「リッパー」「裁縫箱」を除いて保有率は減少傾向にある。特に、しるし付けに用いられる「へら」の保有率は2002年度には80.3%を占めていたが、10年間で17.8%まで大幅に減少していることに注目される。

「アイロンかけ」に関する用具では、「電気アイロン」と「アイロン台」は高い保有率を維持しているが、「きりふき」（霧吹き）の保有率は減少傾向にある。「きりふき」は、湿気を与えて布の収縮や布目を正しくする「地直し」やしわを伸ばすために用いられる器具である。保有されない要因として、アイロンかけに湿気を必要としない合成繊維や防しわ・防縮加工の施された素材の普及、しわや形くずれを気にしなくてもよい服装のカジュアル化などが考えられる。

「洗濯機・衣類乾燥機」では、この10年間における機種の変化が顕著である。2002年度には「全自動洗濯機」が主流を占め、保有率は82.9%を占めていたが、10年間で43.4%まで半減している。代わって登場したものが「ドラム式」あるいは「タテ型」の「洗濯乾燥機」であり、これら2品目の保有率を合計すると63.0%になる。また、前回の調査では「衣類乾燥機」の普及に注目され、保有率は54.8%を占めていたが、今回の調査では18.3%まで減少し、単独では保有されない傾向に一変している。「電気洗濯機」は、水や洗剤の使用量など環境への影響を配慮したより使いやすく高機能高性能な機種が研究開発されていることから、今後の動向に注目する必要がある。

その他、「洗濯・収納」に関する用具では10年間における変化は比較的少ないが、「洗いおけ（たらい）」と「物ほしロープ」の保有率は増加し、「小物ほし器」「物ほしごお」「物ほし台」「洋服ブラシ」の保有率は減少していることから、衣服の汚れや洗濯物の干し方に対する意識に変化が生じていることがうかがえる。

3. 衣生活関連用具に対する使用率の変化

衣生活関連用具における使用品目数の変化は学年および男女により異なることから、「授業以外で最近1年間に使用した」と回答した生徒の割合を学年別・男女別に2002年度と2012年度の使用率として表4に示す。なお、「糸」「針」「ミシン」「電気洗濯機」については、用途や機種に関係なく全体の使用率を示している。また、保有率の低い専門的な裁縫用具、「ミシン」と連動して用いられる「ボビン」と「ボビンケース」は除いている。使用率90%以上の品目は、2002年度の1年生女子において2品目（「ものさし」と「ハンガー」）みられたが、2012年度には該当するものはない。

使用率の高い品目は男子より女子の方が多く、2年生より1年生の方が多く傾向は変わらないが、保有率と同様、10年間ににおける変化の様相は品目により異なることが認められる。使用の有無に対する回答をもとに χ^2 検定を行い、2002年度と2012年度の間に有意差が認められた用具に「*」（アスタリクス）を付している。10年間ににおける変化として有意差が認められた品目は、1年生男子では6品目、2年生男子では1品目、1年生女子では12品目、2年生女子では8品目あり、特に1年生において使用率が減少する傾向を示している。

分類ごとに比較すると、「糸」と「針」の使用率は減少傾向にあるが比較的高く、女子では80%以上、男子では50～70%の生徒が使用している。その他の「裁縫用具」について有意差が認められた品目は、1年生では「へら」「ものさし」に加えて、男子では「裁ちばさみ」、女子では「糸」「巻尺」「裁縫箱」で、いずれも減少している。しかし、2年生女子では「へら」を除いて「糸切りばさみ」「チャコペン」「リッパー」「裁縫箱」などの使用率が増加していることから、裁縫用具は保有されない傾向にあるが、「針」「糸」「布」を用いた物づくりに対する興味・関心が時代とともに失われているわけではないことを示唆している。

「へら」は、保有率および使用率において著しく減少しているが、過去の教科書では布にしるしを付ける時に用いられていたものである。用途は多様であり、裁縫用具としては従来和裁に用いられていたものである。先の形状が丸く薄くなっており、その部分を布に押しつけて凹みをつけてしるしを付ける用具で、色がつかないため布の汚損を防ぐことができるが、時間とともにしるしがわかりにくくなり、しるしの付きにくい素材もある。現行の教科書ではしるしを付けるために「へら」ではなく、小学校では「チャコえんぴつ」、中学校では「ルレット」とともに「布用複写紙」の使い方が主に掲載され、また小学校高学年で購入する裁縫用具一式の中にも含まれていないことなどが、保有・使用されない要因として考えられる。しかし、平成23年検定済中学校教科書では「へら」の写真やイラストが掲載^{18～20}されていることから、被服製作過程において経験の少ない子どもたちが用いることは指導上負担が大きいと思われるが、日本の伝統文化の一つとして、また布にしるしを付ける方法を思考する一環として、その活用方法を紹介することも考えられる。

「ミシン」「電気アイロン」「電気洗濯機」の使用率は、概ね40～60%の範囲に収まっている。

表3 2002年度と2012年度における衣生活関連用具の使用率

(%)

品 目	男子						女子					
	1 年生			2 年生			1 年生			2 年生		
	2002	2012	p	2002	2012	p	2002	2012	p	2002	2012	p
<糸>	76.8	68.5		51.8	61.1		98.4	82.5	**	83.6	83.3	
<針>	76.8	68.5		53.6	50.0		91.8	82.5		78.2	81.5	
<ミシン>	44.6	44.4		28.5	27.8		67.2	49.1		43.6	50.0	
<裁縫>												
糸切りばさみ	67.9	53.7		44.6	42.6		88.5	80.7		70.9	83.3	
裁ちばさみ	58.9	33.3	**	32.1	31.5		77.0	63.2		65.5	68.5	
チャコペン	62.5	44.4		32.1	29.6		70.5	70.2		50.0	70.4	*
針さし	58.9	46.3		28.6	24.1		77.0	64.9		60.0	66.7	
折れ針入れ	35.7	31.5		19.6	13.0		37.7	26.3		29.1	22.2	
へら	30.4	3.7	**	19.6	11.1		31.1	5.3	**	30.9	3.7	**
ひも通し	44.6	27.8		32.1	29.6		67.2	54.4		52.7	50.0	
巻尺	64.3	48.1		39.3	24.1		82.0	61.4	*	58.2	59.3	
ものさし（定規）	78.6	53.7	**	44.6	37.0		93.4	73.7	**	63.6	57.4	
方眼定規	33.9	37.0		23.2	22.2		36.1	26.3		29.1	20.4	
リッパー	19.6	22.2		16.1	13.0		42.6	36.8		20.0	51.9	**
指ぬき	19.6	20.4		10.7	11.1		34.4	33.3		20.0	27.8	
裁縫箱	39.3	22.2		23.2	24.1		80.3	52.6	**	38.2	59.3	*
<アイロンかけ>												
電気アイロン	64.3	50.0		41.1	44.4		88.5	64.9	**	67.3	57.4	
きりふき	50.0	40.7		26.8	18.5		54.1	40.4		34.5	38.9	
アイロン台	58.9	42.6		33.9	35.2		80.3	63.2	*	61.8	55.6	
<洗濯機・衣類乾燥機>												
電気洗濯機	37.5	57.4		46.4	44.4		78.7	66.7		69.1	64.8	
衣類乾燥機	21.4	13.0		26.8	14.8		41.0	10.5	**	27.3	7.4	**
<洗濯・収納>												
バケツ	76.8	55.6	*	51.8	50.0		75.4	50.9	**	69.1	46.3	*
洗いおけ（たらい）	19.6	48.1	**	12.5	29.6	*	31.1	42.1		18.2	40.7	*
ゴム手ぶくろ	64.3	59.3		50.0	46.3		67.2	54.4		70.9	57.4	
はかり	53.6	46.3		37.5	33.3		73.8	59.6		49.1	59.3	
計量スプーン	44.6	59.3		44.6	48.1		68.9	68.4		74.5	64.8	
リットルます	30.4	38.9		32.1	24.1		37.7	50.9		38.2	42.6	
ハンガー	87.5	72.2		58.9	55.6		93.4	89.5		89.1	75.9	
洗濯かご	64.3	63.0		50.0	44.4		83.6	73.7		76.4	66.7	
洗濯ばさみ	76.8	61.1		53.6	48.1		85.2	82.5		89.1	72.2	*
物ほしロープ	5.4	16.7		8.9	9.3		9.8	12.3		9.1	18.5	
小物ほし器	41.1	31.5		23.2	16.7		65.6	52.6		45.5	35.2	
室内用物ほし	23.2	38.9		14.3	29.6		44.3	40.4		45.5	40.7	
パイプハンガー	50.0	14.8	**	16.1	14.8		50.8	31.6	*	41.8	33.3	
物ほしざお	42.9	35.2		28.6	27.8		67.2	42.1	**	54.5	46.3	
物ほし台	19.6	24.1		14.3	9.3		36.1	12.3	**	21.8	18.5	
洋服ブラシ	30.4	16.7		21.4	14.8		44.3	33.3		43.6	38.9	
衣装ケース	26.8	44.4		25.0	31.5		73.8	82.5		61.8	64.8	
タンス	83.9	68.5		50.0	50.0		86.9	86.0		80.0	77.8	

** p<0.01 * p<0.05

1年生男子では「電気洗濯機」の使用率が10年前よりも約20%高くなり、女子と近似した値になっていることに注目され、家庭生活への参加がうかがえる。「衣類乾燥機」は、各学年において保有率とともに使用率も減少傾向が著しい。その他、「洗濯・収納」に関する用具では、10年前と比較して使用率が高くなる用具と低くなる用具が混在している。「洗いおけ」の使用率は増加しているが、「バケツ」「パイプハンガー」「物ほしざお」「物ほし台」は保有率とともに使用率も減少傾向にある。防犯、大気汚染や花粉症対策、洗濯乾燥機の普及、マンションの景観などの理由から、洗濯物を屋外に干す習慣が薄れてきていることが推察される。

家電製品の動向や住まいに対する考え方など生活様式の変化は、衣生活関連用具に限らずその時代の道具類のあり方に影響を及ぼしていることから、調査を継続するとともに生活環境の変化に注目することが必要であると考えられる。

結 語

衣生活関連用具に対する意識の変化を把握するために、被服製作および衣服の手入れに関する用具62品目に焦点を絞り、中学生を対象に家庭における保有状況と授業以外における最近1年間の使用状況について記憶をもとに回答を求める形式で調査した。そして、10年前の調査結果と比較することにより、次のようなことが明らかとなった。

- 1) 衣生活関連用具の保有品目数および保有率は、10年前と比較して男女ともに減少傾向にある。今回の範囲では4～5品目減少し、生徒の90%以上が回答した品目は2002年度には19品目に対して、2012年度には14品目である。使用品目数は、男子より女子の方が多く、2年生より1年生の方が多い傾向は変わらないが、10年前と比較して2年生における変化は1品目以内に対して、1年生において減少傾向を示し、学年による差は縮小傾向にある。
- 2) 被服製作に関する用具の保有率および使用率は、10年前と比較して特にミシン縫いに関係する用具は保有されないし、使用されない傾向にあり、ミシンを保有していない家庭は2002年度の14.0%に対して、2012年度には28.8%まで倍増していることから、近い将来半数以上になることが予想される。保有率の高い品目は「手縫い糸」「手縫い針」「まち針」など「手縫い」に用いられるもので、小学校で準備する裁縫セットに含まれているものである。また、しるし付けに用いられる「へら」の保有率は、10年前と比較して80.3%から17.8%に激減し、現行の教科書ではしるし付けに用いられないこと、学校で購入する裁縫セットの中に含まれていないことなどが考えられる。しかし、2年生女子では「リッパー」「チャコペン」「裁縫箱」など使用率が増加しているものもあり、被服製作に対する興味・関心が時代とともに薄れているわけではないことが示唆された。
- 3) 衣服の手入れに関する用具では、10年前と比較して多くの品目において保有率および使用率の変化は僅かであるが、「電気洗濯機」では機種に変化がみられ、2002年度の調査において保有率80%以上を占めていた「全自動洗濯機」は、2012年度には40%台まで減少し、代わって

「衣類乾燥機」の機能も備えた「洗濯乾燥機」の保有率が60%以上を示し、使いやすい家電製品への移行が認められる。また、「物ほしぎお」「物ほし台」の保有率および使用率の減少傾向から、洗濯物を屋外に干す習慣が薄れていることが推察され、生活の中で用いられる道具類は住まいのあり方とも密接に関係していることが示唆された。

本研究を進めるにあたり、アンケート調査にご協力下さいました関係者の皆様に感謝申し上げます。

文 献

- 1) 文部科学省，小学校学習指導要領（平成20年3月告示），東京書籍，91（2008）
- 2) 文部科学省，中学校学習指導要領（平成20年3月告示），東山書房，104（2008）
- 3) 日景弥生・鳴海多恵子，被服製作用語に関する知識の実態—弘前市内の小中学生と大学生を対象として—，日本家庭科教育学会誌，第39巻，第1号，47-53（1996）
- 4) 日景弥生・鳴海多恵子，被服製作に関する知識や技能の定着における高校家庭科男女必修の影響—男女必修依然と必修後20年経過時点での調査結果の比較を通して—，日本家庭科教育学会誌，第54巻，第1号，12-22（2011）
- 5) 布施谷節子・高部啓子，家政系女子短大生における手縫いの技能の実態—被服製作の知識と過去の経験との関連性—，日本家庭科教育学会誌，第43巻，第4号，273-278（2001）
- 6) 山本紀久子・服部由美子・丸川澄子，家庭科教科書における教具に関する研究—家庭における調理用具及び被服製作用具の保有状況—，福井大学教育学部紀要 第V部，第36号，9-19（1997）
- 7) 服部由美子・山本紀久子・青木一三，家庭用ミシンの保有に関する調査研究，福井大学教育学部紀要 第V部，第37号，13-22（1998）
- 8) 山本紀久子・服部由美子，家庭におけるアイロンかけの用具の保有状況と家庭科教科書にみる扱い，福井大学教育学部紀要 第V部，第38号，19-28（1999）
- 9) 服部由美子・齋藤美穂・山本紀久子，衣生活のための用具に関する調査研究，福井大学教育地域科学部紀要 第V部，第40号，9-38（2001）
- 10) 洪川祥子他，新編 新しい家庭5，東京書籍，平成11年2月15日文部省検定済
- 11) 洪川祥子他，新編 新しい家庭6，東京書籍，平成11年2月15日文部省検定済
- 12) 斉藤健次郎他，小学校 わたしたちの家庭科5，開隆堂，平成11年2月15日文部省検定済
- 13) 斉藤健次郎他，小学校 わたしたちの家庭科6，開隆堂，平成11年2月15日文部省検定済
- 14) 石田晴久他，新編 新しい技術・家庭上，東京書籍，平成8年1月15日文部省検定済
- 15) 石田晴久他，新編 新しい技術・家庭下，東京書籍，平成8年1月15日文部省検定済
- 16) 鈴木寿雄他，技術・家庭上，開隆堂，平成8年1月15日文部省検定済
- 17) 鈴木寿雄他，技術・家庭下，開隆堂，平成8年1月15日文部省検定済
- 18) 佐藤文子・金子佳代子他，新しい技術・家庭 家庭分野，東京書籍，147，平成23年2月15日文部科学省検定済
- 19) 鶴田敦子他，技術・家庭 [家庭分野]，開隆堂，191，平成23年2月15日文部科学省検定済
- 20) 汐見稔幸他，技術・家庭 家庭分野，教育図書，201，平成23年2月15日文部科学省検定済